

(12) 中村南小学校

学 校 長 今城 季紹

校内研究代表者 上田 浩稔

1. 研究主題

見方・考え方を働かせ、資質能力を育成する授業づくり
～「問い」を作るための学習過程・指導方法の工夫～

2. 研究主題設定の理由

本年度は、学習指導要領の趣旨及びこれまでの本校の取組を踏まえて、算数科を中心として『見方・考え方を働かせ、資質能力を育成する授業づくり～「問い」を作るための学習過程・指導方法の工夫～』を目指して取組を進めていきたい。

見方・考え方を働かせ、資質能力を育成する授業づくりにあたっては、次の3つのポイントがあげられる。

1 授業のゴールを変える

資質・能力ベースの授業づくりにおいて、まず大切にしたいことは学習のゴールを見直すことである。内容ベースの授業では、何を知っているか、または何ができるかが学習のゴールとしてのまとめに位置付くことが多かったが、資質・能力ベースの授業においては「数学的な見方・考え方」をどのように働かせて問題解決に取り組んだのか、それがどのように成長したのか、さらに学びの結果として新たに何ができるようになったのかなど、授業を終えて身に付いた力～賢くなったこと～を明らかにしていくことが必要である。

2 数学的活動を組織する

資質・能力を育成していくためには、従来の学習過程を見直して資質・能力ベースの授業づくりの在り方を確認することが必要である。内容の習得を最優先の課題とした学習過程ではなく、事象を算数の価値（見方）から捉えて問題を見だし、問題を算数・数学らしい認知・表現方法（考え方）によって自立的、協働的に解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする過程といった問題解決の過程を丁寧に進めていかなければならない。

3 コンテキスト（文脈）を子どもと教師とで描く

問題解決の過程を用意しただけでは、資質・能力を育成する学びはスタートしない。問題解決の過程において、子どもが主体的・対話的で深い学びを営むためには、学習過程を主体的に学び進むためのコンテキスト（文脈）が極めて大きな意味をもっており、資質・能力の育成を目指すためのコンテキストの開発が必要である。

そのコンテキストの開発にあたっては次の2点からのアプローチが重要。

① オーセンティック（真正）な学習場面の設定

日常事象の課題解決に算数を活かす展開および算数の内容を統合的・発展的に創る展開のいずれにおいても、学習がオーセンティックであれば観察・操作等から算数を見だし、これに関わって親しみ、また観察・操作等の追体験や確認を行うことで、子ども自らが算数の価値に出会い、それを納得することを可能にする。

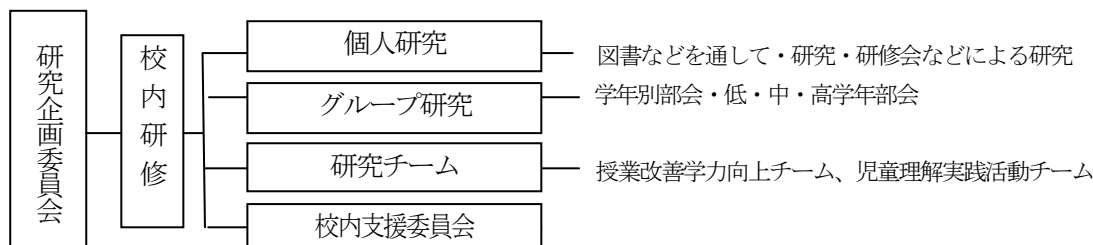
② 「数学的な見方・考え方」の明示的指導

「数学的な見方・考え方」に気付けるような明示的指導を重視すること。算数の知識や技能を統合・包括するような鍵概念や算数ならではの認知・認知や表現の方法などに常に子どもの関心が向くようにすることが大切である。

以上のポイントを意識し、見方・考え方を働かせた資質能力を育成する授業づくりを行う中で、各研究組織や研究チームを活用し、学校教育目標「豊かで かくしく たくましく」の「知・徳・体」のバランスのとれた児童を育成していきたい。



3. 研究の進め方と方法

① 研究組織



- *企画委員会・・・第1月曜日の16:00～校長、教頭、事務長、教務、研究、
- *研究企画委員会・・・第2月曜日の16:00～校長、教頭、教務、研究、研究チームリーダー、道徳教育推進教師
- *校内支援委員会・・・第4木曜日の16:00～教頭、特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任、養護教諭、児童理解TR（場合によっては、該当児童の学級担任にも参加してもらう。）
特別な支援を必要とする児童の実態把握と支援体制

②研究チーム

	授業改善・学力向上チーム	児童理解・実践活動チーム
研究目標	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の授業づくりを通して育成すべき資質・能力の向上を図る。 ・基礎学力の定着と学力の向上を目指す取り組みを学校ぐるみで推進する。 ・児童の学力状況を把握し、全校での学力向上策を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習を基盤としながらお互いの良さを認め合い、支え合える仲間づくりを目指す。 ・道徳的実践の充実を目指して、指導内容の重点化と総合的な推進を図る。 ・家庭・地域社会と連携して、人権・道徳教育の推進を図る。
取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 算数科授業づくりの研究 <ul style="list-style-type: none"> ・教科経営案及び年間指導計画の作成 ・南小スタンダードの作成 ・学習指導案についての研修 ・授業づくりの研究・実践 ・授業評価表の活用 (2) 学力向上のための取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・個人カルテの作成 ・全国学力学習状況調査・標準学力調査 ・市販テストの分析と活用 ・関わり合いのステップアップ ・ノート指導の充実 (3) 基礎学力定着のための取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導・TT指導 ・みなみタイム ・基礎学力タイム・パワーアップ ・計算力・漢字力テスト (4) 家庭学習の習慣化と質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習アンケートの実施と分析 ・家庭学習の手引きについて ・自主学習の達人 ・なかよしタイム 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 仲間づくり活動 <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動の充実 ・学級・学校きらり ・学級づくりのポイント ・QUアンケート ・グループエンカウンター ・児童理解を深める活動 ・安心安全な学校学級環境づくり (2) 道徳的実践の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・整理整頓（靴箱・ロッカー・トイレ） ・学校美化（掃除） ・登下校の歩き方、廊下の歩き方 ・名前の呼び方 (3) 家庭・地域社会とともに進める人権・道徳教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・生活づくり（いきいきカード） ・家庭・地域社会へ人権・道徳教育の発信（学校だよりでの担当コーナー等） ・道徳教育ハンドブック「家庭で取り組む 高知の道徳」の活用
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 10px;"> 見方・考え方を働かせ、資質能力を育成する授業づくり </div>		

4. 今年度の主な取り組み

- (1) 算数科を中心とした学力向上に関わる内容
 - ① 算数科授業づくりの研究
 - ② 学校ぐるみの基礎学力の定着と学力の向上等の充実
 - ③ 個別の支援を必要とする児童への対応のあり方

- (2) 児童理解に関わる内容
- ① 仲間づくり活動の充実
 - ② 道徳的実践の指導
 - ③ 家庭・地域社会とともに進める道徳教育の推進
- (3) 算数科授業研究

日	学年組	授業者	資料名
5/27	6年	上田	対称な図形
6/10	なかよし1. 2. 3	岡田・濱口 ・松下	大きい数の筆算を考えよう・かけ算の世界を広げよう つり合いのとれた図形を調べよう
6/24	3年2組	小松	あまりのあるわり算
10/7	5年1組	松岡	分数と小数、整数の関係
10/21	1年1組	竹又	かたちあそび
10/30	1年2組	松岡	かたちあそび
11/25	2年	濱田	九九をつくろう
1/20	4年1組	景平	箱の形の特ちょうを調べよう
1/28	4年2組	喜多	箱の形の特ちょうを調べよう

5. 今年度の成果と課題

- 算数科の研究を通じて、育成すべき資質・能力を身に付けることができるよう研究を計画し、教材研究や授業研究を繰り返すことにより、目指す授業づくりについての共通理解を図ることができた。また、講師を招聘しての学習会を実施したことで、授業づくりのポイントや目指すべき方向性を示唆してもらうことができ、授業改善を進めることができてきている。
- 授業づくり講座では、参加者からの授業についての肯定的評価が82%となり、提案授業を通して自校の研究を広めることができ、年度当初の目標値を達成していることから、指定校としての役割を果たすことができた。
- 教員アンケートの結果からは、「わかりやすい授業につとめている」の項目で肯定的評価が94.1%となっており、研究テーマを意識した授業改善を日々行っていることがわかる。
- 目指す授業に向け、見方・考え方に着目できるような学習対象とどのように出合わせるのか。また、生きて働く知識・技能にするためには、どのようにすればいいのか。そして、子供が自ら問いを見いだす力を身に付けていくためには、どのようにすればいいのかなど、文脈の描き方を再検討していく必要がある。また、どのように子供は数学的な見方・考え方を働かせるのか、どのような数学的な見方・考え方の成長を描くのかなど、学びを深めていく授業展開や単元デザインの在り方について追究していく必要がある。
- 市販テストの結果(算数)を見ると、82.6%で到達目標の85%を上回ることができなかった。知識・技能は87.5%で上回ることができていたが、思考力・判断力・表現力では74.7%と大きく下回り、弱さが見られた。また、高知県学力学習状況調査(自校採点)においても、両学年ともに全国平均以上(4年: +6.9P、5年: +4.2P)ではあったが、思考力・判断力・表現力においては課題が残る結果となった。学校ぐるみの学力向上策の見直しと更なる授業改善を継続していく必要がある。
- 個別の支援を必要とする児童も多く、一人ひとりの個に応じた手立てを行っていくことで基礎基本の定着を図り、学力を向上させていく必要がある。

《来年度に向けて》

- 今年度の反省を生かして、来年度も算数科の研修を校内研修の年間計画に位置付け、継続して取り組んでいく。特に本校の課題である、思考力・判断力・表現力を高めていけるように、目指す授業づくり(問いを作るための学習過程・指導方法の工夫持たせる工夫)に向けてポイントを絞った研究を進めていく。
- 年間指導計画の見直しを行いながら、6年間を見通した系統的な指導の充実を図り、創意工夫した実践をしていく。教員全員が公開授業を行い、実際の児童の姿から研究を進めていく。
- 研究授業後の研究協議については、グループ協議だけでなく、パネル討議形式を取り入れるなど、多様な形態を取り入れていきたい。